

# 普及センターだより

## 土浦



令和7年3月14日 No.50  
茨城県県南農林事務所 経営・普及部門  
(土浦地域農業改良普及センター)  
土浦合同庁舎第2分庁舎3F  
土浦市真鍋5-17-26  
電話 029-822-7242  
FAX 029-822-7370  
URL [https://www.prefibaraki.jp/nourinsuisan/nannorin/keiei/tsuchiura/00\\_index/index2018.html](https://www.prefibaraki.jp/nourinsuisan/nannorin/keiei/tsuchiura/00_index/index2018.html)



有機米研究会  
巡回・調査の様子



有機農業技術検討会



かすみがうら市  
オーガニックビレッジ宣言

**当普及センター管内における有機農業の最近の動きについて紹介します。**

### 【オーガニックビレッジ宣言】

「オーガニックビレッジ宣言」は、有機農業の生産から消費まで一貫し、農業者のみならず事業者や地域内外の住民を巻き込んだ地域ぐるみの取組を進める市町村です。管内では、かすみがうら市が令和六年一二月に県南地域で初のオーガニックビレッジ宣言を行いました。また、石岡市も年度内の宣言を目指しています。

### 【有機技術検討会】

令和六年一二月に石岡市で開催された「令和六年度県南地域有機農業技術検討会」(県南農林事務所主催)において、JAやさと有機栽培部会の新規有機農業者育成や販路拡大の取り組み、栽培事例に関する発表が行われました。参加した生産者から、栽培や販売について多くの質問が出され、有機農業に関する関心の高さが伺えました。JAやさと有機栽培部会は、平成九年の設立以来、環境に配慮した農業に取り組み、新規就農者育成にも熱心に取り組んできたことが評価され、令和五年度第六二回農林水産祭内閣総理大臣賞を受賞されました。

### 【有機米の拡大】

管内において有機米の栽培が広がっています。石岡市では令和五年に「有機米研究会」が設立されました。令和六年度は七、八ヘクタールが作付けされ、市内の学校給食へ提供されたほか、生協、都内スーパーの有機野菜コーナー等へ出荷されました。令和六年一二月に開催された「第四回いばらき米の極み頂上コンテスト」の有機米部門に有機米生産者全員が出品し、三名が最優秀賞、優秀賞、優良賞を受賞しました。また、かすみがうら市でも令和六年度より有機米栽培が始まり、学校給食へ提供されました。

営農トピックス  
cinnabapple  
**健苗育苗で高温に  
強いイネづくりを**

種子の登熟期間が高温であった令和六年産種子は、種子の休眠が深い傾向にあります。出芽の遅れやばらつきが生じる可能性がありますので、浸種日数をこれまでより一日以上長くするなど、十分に浸種を行ってください。

催芽に関しても、浸種を延長した上で、例年よりもハト胸状態となるまでに時間がかかる可能性があるため、こまめに種子の状態を確認し、ハト胸状態（写真）となるまで催芽を継続してください。催芽が不十分だと出芽に時間がかかり、保温中の病害（もみ枯細菌病など）の危険が高まるため注意が必要です。そのためにも、十分な浸種を行いましょ。高密度播種育苗では、ムレ苗の発生や苗の老化がおこりやすいので、温度管理や育苗日数に注意してください。近年の気温にあわせた育苗計画の作成が重要となります。

よく観察し、ポイントを押さえた栽培管理を心掛けることで、高温に負けない稲づくりを実践しましょう。



(写真)

営農トピックス  
cinnabapple  
**水田作物を加害  
する外来生物**

近年は外来生物の侵入が話題となっていますが、土浦地域（土浦市、かすみがうら市、石岡市）でも発生が確認されています。

土浦地域は霞ヶ浦に接し、水利豊かなことからイネ、れんこんなどの栽培が盛んですが、外来生物として、○○○種以上が指定されており、中には水田作物を加害する水生の種類もいます。

○スクミリンゴガイ

（通称、ジャンボタニシ）

五センチメートル以上になる大型の貝で（写真）、卵には毒があり、成員には有害な寄生虫がいることもあります。イネやれんこんを食害します。

○ナガエツルノゲイトウ、オオフサモ  
ともに南米原産の多年草で、植物大群落が水利施設の通水を困難にします。増殖力が強く、刈り払い等で細断された茎の断片から再生し、拡散します。

○ミシシツピアカミミガメ

ペットとして輸入されたものが遺棄されて増殖しました。れんこんの新芽などを食害する他、ヒトへのサルモネラ菌の感染例があります。

これらの情報と対策は、広報資料でお知らせしている他、ホームページでも公開していますので、参考にして下さい。



(写真) スクミリンゴガイ

営農トピックス  
cinnabapple  
**ナシ炭疽病の  
耕種的防除**

昨年は「豊水」や「恵水」、「新高」で炭疽病が発生し、収穫時期に早期落葉が見られました。

炭疽病は、梅雨明けごろから葉や葉柄に茶褐色の小斑点が現れ、斑点は徐々に大きくなり（写真）、八月下旬～九月上旬に早期落葉します。早期から著しく落葉するため、樹勢の充実が妨げられること、落葉に伴い秋季の開花がみられることから、翌年の着花数が減少し、収量が低下します。

炭疽病は多発すると抑えることが難しいため、発生初期から

の徹底防除と耕種的防除を組み合わせて対応します。特に、罹病した落葉は翌年の伝染源となるため、土壌にすき込むか、ほ場外に持ち出して処分するよう徹底してください。また、通風が悪く湿気が溜まりやすい場所が発生しやすいため、ほ場内環境の改善に取り組みしましょう。



(写真) 炭疽病による葉の病斑

営農トピックス  
cinnabapple  
**スプリングラーを用いたグラジオラスの  
穂焼け対策について**

近年の季咲または抑制作型のグラジオラス栽培では、高温による「穂焼け（写真1）」が発生し、収量及び品質が低下することがあります。

対策として、現地では遮光率六〇～七〇%の遮光ネットの展開が広く普及していますが、台風接近時の撤去・再設置に多大

な労力がかかることが課題となつていきます。

スプリンクラーを用いた穂焼け対策(写真2)は、水源の確保が必須となりますが、台風時の撤去・再設置が容易であり、令和六年の現地事例から遮光ネットの展張と同等の効果があると考えられます。

水源を確保する手法として、水田転作が想定されます。県では水田の畑利用を推進するための簡易な基盤整備に対して補助を行う「水田畑地化推進事業」を用意しています。

同事業については、県南農林事務所 経営・普及部門または土地改良部門事業調整課(電話:〇二九一八二二一五〇四五)へお問い合わせください。



(写真2) グラジオラス、スプリンクラー現地事例  
穂が少し上がってきた頃に1日おきに午前9時~12時の3時間、散水



(写真1) 穂焼けしたグラジオラス



**土浦市**  
第五期「土浦ブランド」が認定されました!

令和六年二月二十五日、「土浦ブランド」として第四期までの三四品の再認定と、九品が新規認定されました。

「土浦の恵みが人を結び、まちの賑わいが土浦を豊かにする」土浦ブランドは、市内で生産される農林水産物やそれらの加工品、歴史・伝統をもつ飲食物や商品で、土浦市の魅力を広めていき、イメージアップと多くの人々が土浦に集まってくるシンボルとして期待されています。認定品の詳細は、土浦市HPや添付の二次元コードからご覧いただけます。



MADE IN TSUCHIURA  
育てる力 水と土の力 土浦



**かすみがうら市**  
かすみがうら市推奨品  
「湖山の宝」

「湖山の宝」は当市のブランド化推進会議において審査を行い、推奨品として認証された農水産物や加工品、工芸品です。本年度は、更新した一〇件に新規の一件を加え、三三品が認証されています。

「湖山の宝」とは、湖を「霞ヶ浦地区(霞ヶ浦)」、山を「千代田地区(筑波山系)」、宝を「農水産物や観光などの地域資源」にたとえ、市内に有する観光資源の他、市内でとれた農水産物やそれらをふんだんに使った加工品等を象徴する、統一的なブランドネーミングです。

かすみがうら市では、「湖山の宝」を市内外と共有し、観光的ブランドや好感的印象を高めていくとともに、推奨指定や認証品の販売を支援していきます。

認証品の詳細は、かすみがうら市HPや添付の二次元コードからご覧いただけます。



**石岡市**

「朝日里山ファーム」  
令和八年度研修生募集

石岡市柴内の朝日里山ファームは、国の新規就農者研修制度に基づいた研修施設です。本施設は、農業で独立を目指す青年等の研修農場で、体験型観光施設「朝日里山学校」周辺の耕作放棄地を再生し、「有機野菜コース」の他「いちごコース」「ぶどうコース」を併設しています。

研修生となる資格・条件は、市内に居住すること、年齢が四五歳まで、研修終了後は市内で就農すること等です。研修は二年間で、毎年一組ずつ受け入れられています。詳しい相談は朝日里山ファーム(電話:〇二九九一五一一三一一七)または石岡市新規就農者支援センター(石岡市農政課 電話:〇二九九一四三一一一一)へお問い合わせください。



**農業三士 認定者・退任者の紹介**

今年度、六名の方が農業経営士・青年農業士として茨城県知事の認定を受けました。

**農業経営士**

石岡市 福田祐子氏 露地野菜(有機農業)



環境に配慮した有機野菜生産を実践しながら、農業担い手育成や子育て支援等の地域活動に積極的に取り組まれています。

かすみがうら市 江後田一也氏 露地野菜(れんこん)



れんこんの専作経営で、作型を組み合わせた周年出荷により、経営安定を図っています。JA水郷つくば理事として、地域農業の振興に貢献しています。

**青年農業士**

土浦市 大久保遼志氏 露地野菜(れんこん)



気候変動や難病害虫の出現で栽培環境が変わる中、れんこんの収量・品質の向上を目指し、新しい技術を積極的に取り入れながら栽培に取り組まれています。

かすみがうら市 小佐畑昌幸氏 施設野菜(こまつな)



気候変動に対応した品種選定、経費削減を考慮した肥培管理を行い、更なる規模拡大を図っています。

かすみがうら市 前川祐介氏 観光果樹(ナシ・ドウロウ)



果樹類は消費者ニーズの高い品種を中心に栽培し、品質の高さを評価されています。また、生産部会や後継者組織の役員を務めており、積極的な地域貢献をしています。

かすみがうら市 岡野拓朗氏 観光果樹(ナシ・ドウロウ)



複数の品種を栽培することで販売期間の長期化を実現しています。地域の後継者組織や県ぶどう連合会青年部活動にも積極的に取り組まれ、技術向上につなげています。

**【農業三士退任者】**

三名の方が青年農業士を退任されました。普及センターにご協力・ご尽力いただきました。ありがとうございます。

- |         |         |
|---------|---------|
| 石岡市     | 柘植 泰宏氏  |
| 石岡市     | 廣澤 剛氏   |
| かすみがうら市 | 小松崎 友二氏 |

**○農業学園・アグリライフセミナーの紹介**

当部門では、就農して間もない方や、独立就農に向けて研修中の方を対象に、農業経営に関する基礎的な知識・技術の習得、仲間づくりを目的とした「農業学園」

を開催しております。今年度は、稲敷地域・つくば地域と合同で「広域講座」として開催し、六月から二月まで全九回の講座を開催しました。

また、女性農業者を対象に、経営者としてのスキルアップに役立つ学習会及び交流会として「アグリライフセミナー」を開催し、先輩農業者の経営見学(果樹・有機野菜・れんこん)や6次産業化の事例調査を行いました。

各講座にご興味がありましたら、お気軽に当部門までご連絡ください。

**○農の6次化商品コンテスト受賞商品の紹介**

農業者が自ら生産した農産物を原料として、加工・販売している商品を対象とした「令和六年度いばらき農の6次化商品コンテスト」が開催されました。

管内からは、甘藷農園燈屋(石岡市)が出品した「半熟スイートポテト」が金賞、「姫蜜やき芋」が特別賞を受賞しました。どちらの商品も、生果販売には難しい規格外の原料を有効活用しています。

今後も当部門では6次産業化による農業経営体の所得向上を目指し、継続した支援を実施していきます。

